

労働組合の地図

2022 年 10 月 27 日

静岡県労働組合評議会 事務局長 上野 力

皆さんは最近地図をご覧になったことはありますか。

多くの皆さんは、自動車で出かけるときや初めての目的地に行く場合にカーナビやスマートホンなどで目的地まで検索するでしょう。そのときに地図をみることになります。昔のように紙の地図ではなく地図アプリといわれるものをよく見ているはずです。

私は山歩きが好きで行く前には地図を必ず何度も見ます。見る地図はもっぱら紙の地図なのですが最近では登山用の地図アプリがあってそちらを見る人が増えてきているようです。

私が見る地図はコースタイム付きの登山地図、行く山の周辺の国土地理院発行の縮尺 25000 分の 1 地形図、これらを必ず見えています。

コースタイム付きの地図や 25000 分の 1 地形図を見ながら「ここは急登だな」とか「ここは尾根で歩きやすそうだな」とか様々な想像を巡らせます。

さて、労働組合の地図と言ったら何なのでしょう。行く先を確認するものですから方針が地図に近いものなのかもしれません。私たちは大会で確認した方針に基づき行動したり、闘いを作り上げます。この方針が組合員の方を見ずに経営者の方を見て作られたならばその労働組合は道に迷い、足を踏み外し転落してしまうかもしれません。

方針は地図だとは言いきれませんが、私たちの行く先を確認するためには重要なものです。

いよいよ 2023 年春闘に向けた方針を作る時期に入ってきました。全労連や連合などのナショナルセンターはすでに春闘の賃上げの要求の考え方を示しました。

春闘の方針はマスコミでも多く取り上げられ春闘の賃上げ要求が記事や社説として出るほどですから多くの人々に注目され、ゴール＝「賃上げ額」はどこなのかと地図全体は見ないもののゴールの設定が注目されるものです。

長引くコロナ禍の影響や物価の高騰、そして何より私たち働く者の賃金が抑え続けられてきたことにより「生活が苦しい」「節約をしないとやっていけない」との声も多く出ています。

このコロナ禍でも大企業は内部留保を増やし続けてきています。働く者や中小零細企業が厳しい状況に置かれる中で大企業がお金を貯めこみ続ける異常な状況が続いてきています。

「米騒動」ならぬ「令和一揆」が起きてもおかしくないような状況になっているのではないのでしょうか。

この状況での春闘方針ですから賃上げ額は注目されています。ナショナルセンターそ

れぞれ例年よりも高い賃上げ設定をしています、その設定額に至る方針を読むと大きな違いが出ています。

この所報を目にされる方は労働組合をはじめ何らかの活動にかかわっているのではないのでしょうか。

ぜひ2023年春闘では地図ともいえる方針をナショナルセンターごとに読み比べて、スタートの違いやルートの違い、そして行き着くゴールの違いを比べてみることをお勧めします。そして、どちらの地図が本当の意味でのゴールにたどり着くのかを見極めてください。

さあ、2023年春闘という山に向かって地図を読むことから始めましょう。